

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 14 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070801073		
法人名	医療法人 関クリニック		
事業所名	グループホーム ばらいる		
所在地	福岡市東区名子1-1-5 〒813-0024 (電話) 092-691-8271		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年11月2日	評定確定日	平成20年1月4日

## 【情報提供票より】(平成19年10月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	ユニット	利用定員数計	9人
職員数	人 常勤	8人	非常勤 人 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての～ 1階部分		
------	---------------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,470円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有( )円	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 116,820円)	有の場合償還の有無	有	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,500円程度			

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2			5名
要介護3	1名	要介護4			0名
要介護5	0名				
要支援1	0名	要支援2			0名
年齢	平均 91歳	最低	82歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	関クリニック 福岡輝栄会病院 三善病院 はすだ歯科医院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体である老人保健施設と同敷地内に平成15年に設立されたホームである。同老健は近隣の高齢者の利用も多く、退所後の選択肢の一つとしての生活スペースを提供したいという思いを持ってスタートしたホームである。現在は他の施設や近隣高齢世帯からの入居も多く、ゆっくりではあるが「老健の敷地の中のグループホーム」として近隣住民の認識も徐々に定着しつつある。母体である老健との医療や栄養管理など専門的分野での協力体制や、法人をあげての安全体制の確立、職員の産休や育児休暇時の支援体制など連携の強さが特徴となっており、それらの連携によるメリットが、入居者や従業員へ十分に反映されているホームである。一方で、事業所の大きな課題である地域との連携も、法人全体として地域とかがかわられることを期待したい事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果を受けて、「業務分担の明確化」や「玄関」の看板の設置等が改善された。地域との連携等の項目は継続的に取り組んでいる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の外部評価を受けるにあたり、職員会議で項目ごとの意義等を確認しながら協議し、自己評価が行われている。
	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 現在は未実施であるが、平成20年4月からの開催を予定している。運営推進会議が地域とのかかわりを構築する契機となることから、運営推進会議の充実を図るとともに、運営推進会議を積極的に活用し、質の向上に取り組んで欲しい。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 契約時に苦情窓口や法人全体の苦情対応体制について説明を行っている。実際の相談や苦情については、面会時に直接話されることがほとんどである。意見や相談は内容に応じてホーム内、または法人全体で対応している。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 地域からのボランティアや中学校の職場体験等の受け入れを行っている。また、散歩や買い物を通じて住民との顔見知りの関係ができてきている。今後、地域行事への参加等を通じて、地域との交流を深めるための取組を期待します。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	運営方針に「地域や家庭との結びつき」を重視した 運営を掲げている。また、昨年度より従来の法人理念 に「地域に開かれた施設を目指す」を加えた。		地域密着型サービスとしての視点を取入れて、さら に職員間で共有するための協議等を行うなど、再度 理念の作成に取り組んでほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所に掲示されているほか、職員 の名札の裏にも印刷されている。日常の介護を通じ て疑問を感じたり、戸惑ったりした時は理念に立ち返 りながら業務に従事するなど、理念へ実践への取組 みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域からのボランティアや中学校の職場体験等の 受け入れを行っている。		地域行事への参加等を通じて、地域との交流を深 めるための取組みを期待します。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果を受けて、「業務分担の明確化」や 「玄関」の看板の設置等が改善された。地域との連携 等の項目は継続的に取り組んでいる。今回の外部評 価は、職員会議で項目ごとの意義等を確認しながら 協議し、自己評価を行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	未実施である。平成20年4月の開催にむけて検討中である。		運営推進会議が地域とのかかわりを構築する契機となることから、運営推進会議の充実を図るとともに、運営推進会議を積極的に活用し、質の向上に取り組んで欲しい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福岡市主催の認知症介護実践者研修の研修生を受入れている。また、母体の老健と共に、ふれあい相談員の受入れを行っている。		外部評価結果の報告や運営推進会議への参加呼びかけなど、積極的な行政への働きかけを期待します。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が外部研修へ参加し学んだ事を他の職員へ受講報告する機会を設け、共有する取組みがある。家族への制度の説明や勉強会等への取組みはこれからの課題である		高齢者に利益をもたらす制度の一つととらえ、家族会や運営推進会議等での説明など、利用者・家族・地域にむけての周知への取組みを期待します。
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居者の詳細な状況について報告している。入居者の家族はホーム近隣に住む方が多く、殆どの家族が週1回以上、面会に訪れているが、来訪できなかった場合は電話にて連絡を行っている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や法人全体の苦情対応体制について説明を行っている。実際の相談や苦情は面会時に直接話されることがほとんどである。意見や相談は内容に応じてホーム内、または法人全体で対応している。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は法人で採用され、事業所配属となるが、異動等については最低限で最良の効果が望めるように配慮されており、本年度の離職も1名のみである。産休などの場合も母体の老人保健施設から職員配置や産休後の職場復帰への支援があり、職員が長く勤務できる体制がつけられている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は法人により採用され、適性等を考慮し事業所配属となる。また、配属にあたっては、介護業務のみならず、車の運転や、趣味活動等、一人ひとりの特技が活かされる場面も想定し、ホーム全体の起動力として総合的に考慮されている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内で開催される、高齢者の尊厳に関するテーマ等の勉強会に参加しているが、広く人権意識を喚起するような勉強会・研修などへの取り組みまでには至っていない。		地域や行政で開催される人権学習や、講話会等に参加し、高齢者のみならず、広義においての「人権」に対する認識を深めるための啓発活動への取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に開催される法人主催の研修や勉強会に参加している。外部研修については、案内を掲示し、職員の参加希望を募ったり、管理者が参加の割り振りを行い、勤務を調整するなどの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修等を通じて、他部署職員との情報交換はあるが、他のホーム職員と情報交換を行うなどの交流等はこれからの課題である。		現在、検討中のグループホーム協議会への加入等、他事業所、職員との交流やネットワーク通じて新たな発見や気づきを産む機会を持ち、更なるサービスの質の向上に向けての取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時、見学を受入れ、母体の老健入居者やその家族、デイサービス利用者も気軽に遊びにきており、自然と入居を決められる方が多い。また、直接入居を希望される方の場合も見学を勧め、ゆっくりかわりながら、ホームの雰囲気に馴染んでもらっている。入居後は職員が寄り添い徐々に馴染めるような雰囲気を作っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、朝食時の忙しい職員に気づかって、配膳の準備を手伝ったり、入居者同士の言い合いの仲裁に入ったりと、職員やホーム全体の様子をみながら適切に手助けを行なうなど、共に支えあいながら暮していこうとする関係や雰囲気が伺える。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族の話を聴き取り、アセスメントの概要をまとめ、記録の閲覧や会議等で職員の情報交換を通じて把握している。入居後も、日常での会話や様々な場面を通じて、本人の思いをおしはかるように取り組んでいる。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の情報や支援に関する手順・意見等は各職員が連絡表にて職員全員に回覧し、入居者ごとにまとめている。連絡表等の情報をもとに職員で協議検討を行い、サービス担当者会議を開催して介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヵ月毎、状況の 変化時は随時サービス担当者会議を 開催し介護計画を作成している。 見直しの会議の際は計画の実施記録 やモニタリングの結果、入居者・家 族の意見を検討し、入居者の現状 に即した計画作成への取り組みがあ る。		入居者の心身状況や介護計画の目 標や支援状況等のモニタリングを するためにも、毎月1回程度のカン ファレンスの開催を期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能 性を活かした柔軟な支援をしてい る	かかりつけ医への家族による通 院介助が困難な場合は、できる 範囲で対応している。地域の 高齢者からの相談等に関しては 母体の老健が事実上の窓口とな っており、連携をとりながら 対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつ け医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられる ように支援している	週1回の協力病院、定期的な 歯科、皮膚科の往診が行われ ている。かかりつけ医や希望す る医療機関の受診も家族の付 き添いで行われている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	入居者や家族には契約時に、 急変時の医療機関搬送方針を 説明している。週1回の往診 日には可能な限り家族にも 同席していただき、現在の 身体状況や検査の必要性、 加えて重度化に関する方針 や相談等の話し合いを繰り 返し行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	常日頃より理念でもある「敬愛の心」をもって入居 者に接し、具体的には否定語を使わない等の指導が 徹底されている。記録は事務所の鍵がかかる倉庫に 保管されており、通常は施錠されている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	以前は週間スケジュールを作成していたが、現在は 特に日課も含めたスケジュールは作らずに、入居者 一人ひとりのその日の気分によって過ごしている。事 業所の理念である「今日、一日を楽しく過ごす」を支援 をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	老健のメニューにホームの手作り料理を1品追加し ている。その際の調理の下ごしらえや、配膳・下膳、 台拭き、食器洗い等を手伝ってもらっている。入居者 と職員は同じ食卓を囲み、食事を楽しむ雰囲気があ る。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入浴は原則週3回実施されているが、本人の希望 があれば毎日の入浴も可能である。一番風呂等順番 の希望や湯温など、できる限り本人の希望に応じて 支援している。入浴拒否が強い入居者もご家族の協 力を得て快く入浴していただけるような支援がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の洗濯物をたたみ、居室へ運ぶこと等が習慣となっている。入居者ごとに自然と役割が決まり、居間に一覧表が出来ている。何らかの事情で出来ない場合も、他の入居者や職員が手助けしながら役割を果たそうという、入居者の自発的な意志が感じられる。他に歌や家庭菜園等、入居者一人ひとりが楽しみを見つけ一日を楽しく過ごすための支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年2回の外出、コスモスや紅葉見学などの毎月1回の季節の行楽や、気分転換のドライブ等を楽しんでいる。日常的には近所への散歩などを行い、車椅子利用者も他の入居者と同様に外出を楽しめるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開錠されており、同敷地内の老健やデイサービス利用者にも開放されている。単独での外出傾向がある入居者には職員が付き添っての外出や、老健の事務所や職員による見守りが行われるなど、柔軟に対応している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同敷地内での合同の非常災害時の研修や消防署指導による避難・消火訓練等の実績がある。災害時・緊急時には法人内で連携体制ができており、法人全体で入居者の安全を守る取り組みがある。		法人全体で地域へ働きかけ、非常災害時等の安全対策や連携体制への取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の老健で栄養価やバランスを考慮しての献立作成と調理を行い食事提供をしている。加えて一品をホームで調理し、入居者の好みや食習慣にも対応できるように支援している。食事摂取量は毎回記録し、水分摂取については必要に応じて観察や水分補給を促すなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	採光が良く配慮されており、全体的に明るい共用ス ペースになっている。季節感を意識的に取り組んだ装 飾や、優しい色調の家具や壁紙等、居心地良く過ご せるような工夫がある。リビングにはソファや畳ス ペースもあり、横になることもでき自然とくつろげる工 夫がされている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	お箸・茶碗・湯のみは必ず馴染みのある物を持参し ていただき、身のまわりの物から落ち着いていただけ る様に支援している。居室にはベッドとクローゼットを 設備しており、他の家具や雑貨等は入居者や家族が 相談をして持参している。季節ごとの洋服の入れ替え や模様替えなども同様に入居者・家族が相談しなが ら本人が居心地良く過ごせるように工夫している。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号